

2024年度（華道）部の指導方針について

2024年4月作成

1 指導体制

- ・顧問2名
- ・外部指導員1名

2 年間目標

中学・高校5年間で、指導員の先生が教授されている古流の江戸時代から続く伝統の「生花」と、形にこだわらない自由の形式の「現代華」を、それぞれの個性を伸ばしながら指導していただく。

自然の草花をどのように生け上げるか、1つの花材であっても、四季で全く違う姿を認識して、花材を扱っていく。

本校は、古流松藤会本部から、学校指定を受けており、中学3年時には家元から、「理名」をいただき、本部の研究会に参加できるところまで、くり返し練習する。

3 指導方針

大切な伝統文化を習得していくため、いけばなの技術・花型を学び、いけ花を通じて、光や風・空気を感じ、心が豊かになる様にと指導している。自然の草花を生けるので、扱う花材に対して優しく接しながら、基本的な扱い方と花型をできるだけ分かり易く生け直している。

生け上げた喜びをこわさない様、豊かな感性や個性を伸ばしてほしいと心がけている。まわりの人が鑑賞した際に、「素敵」と言われる様に生けさせている。

4 指導内容・方法

1年目は剣山にさす事からはじまり、自宅で再現する際に生ける場所を想定し、大きさ広がりを考え、花材の配置や角度、花の向き、枝の流れを「ためる」という技術を習得しながら、作品として作り上げる。

2年目からは、「生花」、天(宇宙すべてをつかさどる導くもの)、地(大地、従うもの)、人(人間によって代表される万物、和するもの)の3つの格をもつという事を念頭において、伝承されている基本の花型を身につけていく。

3年目には、家元主催の研究会で、他の社中の方の生け方、審査の先生の評価をいただき、より技術を高め、切磋琢磨、研究する力を養う努力をする。

5 主な年間計画

学期	月	活動内容
1 学期	4	中学1年生は、花材に親しむ。中学2年生は、生花の形を覚える。中学3年生は、研究会の対応。
	5	この季節は、木も花も豊かになるので、自由に感性をのばしていく。
	6	「生花」を生けられる様になっている上級生に新しく始めた下級生の指導を手伝ってもらう。
	7	花もちの悪い暑さなので、短く切って生けられるアレンジに挑戦させる。
	8	文化祭に使う1輪挿しの花器作りで、陶芸教室に通う。
2 学期	9	文化祭にむけて、花器の選び方、見栄えのする生け方を考える。
	10	秋の紅葉の素材の生かし方を学ぶ。
	11	柳を中心とした花材で、＜ため方＞＜動き＞を研究していく。
	12	松を中心とした、お正月のお花を華やかに生けていく。
3 学期	1	中学1年生も、この頃には、自由に表現できる作品を作れるまでになっている。
	2	雪柳、れんぎょ等、葉の出る前に花の咲く花材を使っていく。
	3	三送会の会場にそれぞれの作品を飾り、華道部らしい雰囲気作りをする。

合宿や遠征など宿泊を伴う活動については、必ず記載する。